

# 令和7年度 都立中野特別支援学校しいの木分教室 学校評価まとめ

## 1 児童・生徒アンケート（回収率 100%）

### （1）アンケートの結果

- ア 100%のアンケート回収率であった。施設入所をしている児童・生徒であるため、アンケートの実施を学校で行ったことから、100%の回収率となった。
- イ 全9名の児童・生徒のうち、6名が「聞き取ったが、意思の確認は難しかった。」に該当し、それ以降のアンケート内容については未回答となっている。回答した3名についても、担任が聞き取ってアンケートに回答している。
- ウ アンケート内容に回答した3名については、すべて肯定的・ポジティブな回答となっている。

### （2）今後の取り組み

- ア アンケートの実施・回収については、今後も今年度と同様の方法でアンケートを実施・回収する。
- イ 引き続き「学校が楽しい」「授業が好き」と思える教育課程の検討を行っていく。
- ウ 袖ヶ浦のびろ学園（以下、のびろ学園）から通う児童・生徒だけの在籍となり、アンケートへの回答及び意思確認が困難な実態がある中でも、有効な回答結果が得られるよう、アンケートの聞き取り方など、工夫を行いながら実施していく。

## 2 保護者アンケート（回収率 100%）

### （1）アンケートの結果

- ア 令和6年度から令和7年度にかけて、肯定的な回答の割合が伸びているアンケート項目が複数見られた。一部の項目では、その割合に変化が見られないものもあった。
- イ 「感染症防止対策」や「キャリア形成」についての項目では、「ほぼそう思う」が「そう思う」よりも多かった。また、記述意見においても、進路に関わる要望や進路への将来的な不安が読み取れる。
- ウ 新規の設問である保護者会や授業参観、校外学習・宿泊学習、働き方改革の推進などの教育活動についても、一定の理解を得ることができていた。

### （2）今後の取り組み

- ア 「ほぼそう思う」から「そう思う」へ更に満足度が上がり、児童・生徒が充実した学校生活を送ることができるよう、専門性の向上や施設職員・保護者との連携をさらに推し進めていく。
- イ 居住地自治体の施設見学や福祉課訪問等へ向けた支援の充実を図る。また、高等部だけでなく、小学部・中学部の保護者への情報発信の充実を図るとともに、早い段階から動いていただくように働きかけていく。
- ウ 中野本校や近隣関係各所と連携し、本校と合同の宿泊学習や交流学习など教育活動の充実を図り、またその様子などを保護者にもHPやおたより、個別連絡の際などに伝えていく。

## 3 関係機関アンケート

### （1）アンケートの結果

- ア 回答数が減った要因として、東京都千葉福祉園（以下、千葉福祉園）が対象外となったことや、のびろ学園へ依頼を出した時期や出し方が関わっていると思われる。施設の回答対象者数等が不明なため、回収率不明。
- イ 授業への満足度や教員の専門性、キャリア形成、学校公開、保護者会などについて判断不可の回答があるが、参観等は施設の方々も勤務中の時間帯であるため、参加が難しい背景がみられる。
- ウ 「分かりやすい授業への取り組み」「自ら分かって行動しようとする態度や意欲の育成」「施設職員等と連携した個々のニーズに合わせた指導」「感染防止対策」について、“ややそう思わない”の回答があった。

### （2）今後の取り組み

- ア 施設との月例連絡会の中で期間に余裕をもって依頼を行い、回答の進捗状況を見ながら適宜協力をお願いをする。
- イ 学校公開及び全体会では、施設職員に向けたオンライン配信の実施などを検討する。
- ウ 重度の知的障害をもつ児童・生徒にも分かりやすい指導の充実や健康管理・安全管理について、施設-学校間のニーズや理解の共有を一層図っていく。

## 4 教職員アンケート（回収率 100%）

### （1）アンケートの結果

- ア 授業改善や授業力向上、高い専門性、個別最適な学習展開等について、昨年度の回答よりも肯定的な回答の割合が低くなっている。今年度より、千葉福祉園児童寮閉寮による少人数化に伴い、のびろ学園から知的障害が重い児童・生徒が通う分教室となった。分教室全体の構成が変化したこともあり、教職員は指導技術等について研さん、成長の必要性を感じていると考えられる。
- イ 授業や児童・生徒の様子に関わる項目で「判断不可・該当なし」の回答が複数あるが、今年度からの新規の選択肢であり、授業や指導に直接関わらない職員の率直な意見が反映されている。
- ウ 記述意見では、学校の風土や働きやすさ、安全面への肯定的な意見がある一方で、業務量の偏りや若手教員の育成・支援などについて課題提起があり、改めて検証や改善を進める必要がある。

### （2）今後の取り組み

- ア 次年度は教育課程の工夫として、中学部と高等部の授業を一部合同で行う。学部間で授業について連携を密にとりあう中で、個別最適な学習展開や、授業力の向上、専門性の伸長を図っていく。
- イ 教員以外の職員も、通常の業務に負荷がかからない範囲で、授業や行事に業務の一環と参加できる機会や体制を整えて、学習指導や児童・生徒の様子への理解を深められるようにする。
- ウ 行事担当の見直しやそれに合わせた学校サーバーの整理等、効率化と組織の協働性を高めていく。若手の育成・支援について主任教諭を中心にOJTを担い、研修にあてる時間や機会も確保していく。